

## 素材生産量の増大に向けた取組～業務連携の取組～

## 1 テーマの趣旨・目的

「群馬県森林・林業基本計画 2021-2030」では、充実した森林資源を循環利用する持続可能な林業経営を確立し、自立した力強い林業・木材産業による森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現を目標としている。そのためには、素材生産量の増大が最も重要と考え、各地域で素材生産量増大に向けた取り組みを進めている。当事務所でも、多野藤岡地域の森林や林業、木材産業の特徴の整理、分析を行い、「林業事業体の人手不足」や「施業地確保」などの課題が抽出されたため、2つの業務連携を進め、管内の素材生産量の増大に務めることとしたので、その経過について報告する。

## 2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

## 2-1 管内の森林と林業・林産業の特徴

管内は、藤岡市、上野村及び神流町で構成され、林野率は80%と高く、スギ、ヒノキ、カラマツの人工林を主体として、県内有数の林業地を形成している。各市町村には、地域の森林管理の担い手の中心として、多野東部森林組合、上野村森林組合、神流川森林組合がある。また、藤岡市には、原木市場と加工施設を併設し、原木流通・加工・製品販売まで一貫した生産体制を有する群馬県産材センター以下「県産材センター」という。）がある。

## 2-2 神流川森林組合と上野村森林組合の業務連携

## (1) 現状

神流町の森林は、全面積の9割を占め、その58%が神流杉・神流檜と呼ばれる充実した針葉樹人工林であり、素材生産量の増大が可能である。神流川森林組合は、森林施業プランナーが3名在籍し、集約化を進めることが可能であるが、直営の作業班員が4名と少なく、施業量を大幅に増やすことが困難である。



写真1 神流川森林組合と上野村森林組合の協定調印式

隣接する上野村では、面積の97%が森林で、そのほとんどが広葉樹天然林となっている。この地域を担う上野村森林組合は製材工場を有しており、スギの製材を行っているが、村内には広葉樹天然林が多く、村外から素材を集める必要がある。また、作業班員も16名と充実しており、他地域での施業も行っている。

## (2) 業務連携の方向性

充実した針葉樹人工林を有する神流町において、神流川森林組合が集約化を進め、上野村森林組合の作業班員が施業を行い、優先的に材を購入することで、互いの長所を活かしつつ、地域として素材生産量の増大を図れるよう連携を進めることとした。

## (3) 取組内容

連携を進めるための下地づくりとして、神流町長と上野村長、両森林組合及び群馬県森林組合連合会に業務連携の必要性や意義について説明を行い、両森林組合間の業務連携協定の締結に対し、理解を得た。普及員の役割として最も重要なところが、この「下地づくり」であったと考えている。

実務者レベルの協議では、保有機械や販路等の現状を共有した後、作業道の施工、選木についての考え方や手順、写真管理の方法等のすりあわせや互いの費用負担について協議を行った。施業場所については上野村に隣接

するエリアから検討し、神流川森林組合が策定した森林経営計画団地「下小越団地」で行うことで合意し、作業道や土場の計画などの現地状況を確認した。さらに、協定書案を基に協議を進める中で、「麻生地区」の搬出間伐も加えることを決定し、協定締結に至った。

#### (4) 取組の成果と課題

神流川森林組合の令和4年次の素材生産量は、6,024 m<sup>3</sup>で、このうち約13%が本協定による成果である。加えて、神流川森林組合で、年間を通して大工育成に係る研修団体「大工志塾」より製材加工品の受注をしていたが、上野村森林組合と共同で製材品の製造を行うことになった。今後、この連携を充実させ素材生産量の増大を図るためには、随時の情報共有が必要である。

### 2-3 多野東部森林組合と県産材加工協同組合、(株)トーセンの業務連携

#### (1) 現状

多野東部森林組合がある藤岡市は、都市部も有するが林野率58%で、特に針葉樹人工林の割合が高く、素材生産の増大が望まれる。しかし、作業班員が不足していることや、集約化が進まず素材生産量が伸び悩んでいる。

県産材加工協同組合(理事長:(株)トーセン東泉清壽社長)は、藤岡市にある県産材センターのうち加工施設を運営している。県産材センター内には、群馬県素材生産流通協同組合が運営する原木市場もあり、原木流通・加工・製品販売まで一貫した生産体制を有している。しかし、時期により素材搬入量に差があり加工施設の稼働率が低下するため、年間を通した安定的な供給体制の整備が課題となっている。

#### (2) 業務連携の方向性

今回、県産材加工協同組合の構成員である(株)トーセンが、多野東部森林組合を介して森林を取得、多野東部森林組合が森林整備を請負、県産材加工協同組合に素材を提供する事業連携を進めることにした。また、多野東部森林組合の不足している作業班については、専属の下請業者(専属業者)を新しく編成することを検討することとした。

#### (3) 取組内容

関係者の意思疎通等を図り相互連携して取り組むために、(株)トーセンが栃木県で取り組んでいる森林組合との連携や製材工場への安定供給等の先進事例につい

て視察研修を実施した。また、県産材加工協同組合への原木供給のための(株)トーセンの林地確保については、多野東部森林組合を介して(株)トーセンが取得若しくは施業受託することとし、搬出間伐を多野東部森林組合へ請負事業として発注することとした。施業実施にあたっては、(株)トーセンが所有する機械一式をリースすることを可能とした。素材の搬出先は、A材3.0m末口径14~28cmは県産材加工協同組合に、その他は(株)トーセンの工場に、チップ材は前橋バイオマス燃料(株)に運搬することとし、県産材加工協同組合への素材の安定供給に寄与した。多野東部森林組合では、増大した施業量を履行できるよう、間伐等作業を多野東部森林組合から独立した事業者や過去に実績のある事業者へ依頼することとした。



写真2 造材の様子(藤岡市大字高山)

#### (4) 取組の成果と課題

多野東部森林組合の令和4年次における素材生産量は、3,696 m<sup>3</sup>であり、そのうち3者の業務連携における素材生産量は1,852 m<sup>3</sup>という大きな成果となった。今後、収支実績を計算し、事業連携の検証を行っていききたい。また、令和4年度においても新たな施業地を取得しており、次年度以降も連携して事業を行う予定である。

### 3 今後取組むべき内容

今回、普及員が業務連携における「下地づくり」等の調整を積極的に図ったことにより、神流川森林組合と上野村森林組合、多野東部森林組合と県産材加工協同組合と(株)トーセン、それぞれの連携の結果、どちらの連携においても素材生産量の増大が図られた。今後もこれらの取組に対して普及員が中心となり指導を行い、連携を深めより充実させ、他の地域の模範的なモデルとなるよう取り組みたい。